交通アクセス

京都工芸繊維大学 工繊会館 多目的室
〒606-8585　京都市左京区松ヶ崎橋上町

地下鉄をご利用の方

バスをご利用の方

学内マップ

連絡先

ジュリー・ブロック : brock@kit.ac.jp

研究会主催

ジュリー・ブロック	京都工芸繊維大学
加 藤 ダ ニ エ ラ	同 大 学 大 学 院
吉 川 順 子	同 大 学 大 学 院

参加研究者

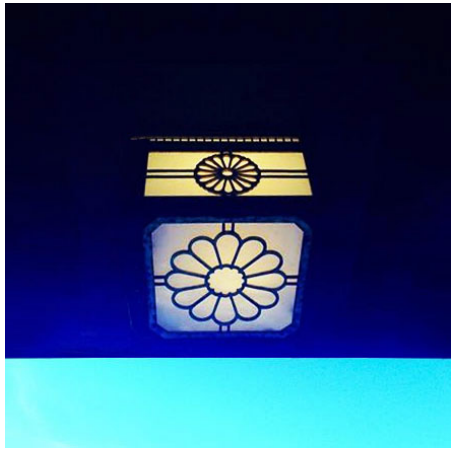
エリック・アヴォカ	大阪大学文学部　特任准教授
伊藤玄吾	同志社大学グローバル地域文化学部　准教授
岩下武彦	中央大学文学部　名誉教授
岩永大気	京都大学大学院博士後期課程
大山賢太郎	京都大学大学院博士後期課程
加藤ダニエラ	京都工芸繊維大学基盤科学系　准教授
駒木敏	同志社大学　名誉教授
ロマリク・ジャネル	フランス高等研究実習院　博士課程
寺井龍哉	東京大学大学院博士後期課程
ジャサント・トランブレー	南山大学 南山宗教文化研究所 研究員
鳥山定嗣	九州大学　専門研究員
西澤一光	新潟経営大学経営情報学部　准教授
野田農	同志社大学嘱託講師
ギレム・ファーブル	ポール・ヴァレリー・モンペリエ第３大学 教授
ジュリー・ブロック	京都工芸繊維大学基盤科学系　教授
吉川順子	京都工芸繊維大学基盤科学系　准教授

協力：日本通訳翻訳学会（JAITS）

京都工芸繊維大学
KYOTO INSTITUTE OF TECHNOLOGY

「日仏翻訳学研究」第４回研究会

文学における「生命感」を いかに翻訳すべきか



撮影：ベノワ・ビュケ（明治神宮、2016 年 8 月 4 日）

2019 年 3 月 15 日（金）〜17 日（日）
京都工芸繊維大学　工繊会館 多目的室

3月15日（金）

『万葉集』における生命感

09：00～12：30

研究会「万葉集における表現技法とその現代語訳」
司会：ジュリー・ブロック

09：00　挨拶　　ジュリー・ブロック
09：20　導入　　ジュリー・ブロック
09：30　柿本人麻呂、日並皇子挽歌
（万葉集巻二 167 番歌）の神話表現について
岩下武彦
10：20　議論
10：50　休憩 20 分
11：10　古今集恋歌にみる修辞—物と心を連係、循環する言葉—
駒木敏
12：00　議論
12：30　昼食

14：00～17：30

研究会「万葉集における主体の問題とその翻訳可能性」
司会：駒木敏

14：00　導入　　駒木敏
14：10　柿本人麻呂の歌を読むことから新しい歌を創ることへ
–「ことあげ」を含む『万葉集』の二首の歌の分析と解釈
ジュリー・ブロック
15：00　議論
15：30　休憩 20 分
15：50　17 世紀における契沖解釈学の確立の意義をめぐって
（第二部）　西澤一光
16：40　議論
17：10　『万葉集』における生命感についての総括
駒木敏
17：30　夕食

20：00～21：30

研究会「ランプセッション（スカイプによるビデオ講演）」
司会：大山賢太郎

20：00　導入　　大山賢太郎
20：10　サミュエル・ベケットにおける自己翻訳
-『初恋』を例に　　岩永大気
21：00　議論
21：30　終了

3月16日（土）

思想と文学への翻訳の作用

09：00～12：30

研究会「哲学の翻訳とその作用」
司会：西澤一光

09：00　挨拶　　ジュリー・ブロック
09：20　導入　　西澤一光
09：30　西田幾多郎と当時の作家たちが、
いかに新たな文体の創出に貢献したか
ジャサント・トランブレイ
10：20　議論
10：50　休憩 20 分
11：10　オーギュスタン・ベルクの思想における山内得立の影響–
「縁起」の翻訳を巡って
ロマリク・ジャネル
12：00　議論
12：30　昼食

13：30～18：00

研究会「言語と翻訳の歴史性」
司会：エリック・アヴォカ

13：30　導入　　エリック・アヴォカ
13：40　ゾラ『ナナ』における都市風景の翻訳
野田農
14：30　議論
15：00　休憩 15 分
15：15　ヴァレリーと翻訳——詩をどう訳すか、
翻訳するとはいかなる行為か　　鳥山定嗣
16：05　議論
16：35　休憩 15 分
16：50　言語の歴史性をいかに翻訳するか–フランス・ルネサンス期テクストの日本語訳を例に
伊藤玄吾
17：40　議論
18：10　フランス文学における生命感についての総括
エリック・アヴォカ
18：30　終了

3月17日（日）

文学における生命感を翻訳する

09：00～12：30

研究会「文学における生命感を翻訳する」
司会：岩下武彦

09：00　挨拶　　ジュリー・ブロック
09：20　導入　　岩下武彦
09：30　忠実な背反–『永遠なる瞬間』における翻訳について
ギレム・ファーブル
10：20　議論
10：50　休憩 20 分
11：10　『万葉集』から折口信夫『死者の書』へ
–解釈を通じての創造　　寺井龍哉
12：00　議論
12：30　終了

※各発表に 50 分（25 分ごとにフランス語、日本語の両言語を使用する）、議論に 30 分、合計 80 分要する。

概要

文学評論家であるマルク・マチュー＝ミュンシュは、読者が作品を読んで感じる効果を「生の作用」と呼ぶ。一方、芸術思想家である伊藤整は、例えば鑑賞者がりんごの絵を見るとき、普段意識しない色や色彩などの美しさを感じ取るのであれば、りんごの「生命」を悟るその感覚は「真の生命感」であると言っている。これら二人の思想を踏まえ、文学における「生命感」の追求を本研究会の主題としたい。「生命感」という観点から見れば、作家の使命とは、作品を通して、読者に生の躍動感を感じさせる事である。一方、翻訳者の使命とは、ただテクストの意味内容を別の言語で再構成する事ではなく、作品によって読者に喚起される心情を伝える事である。ミュンシュによれば、読者への働きかけこそが文学の意義であり、それにより読者は新たな生の「萌芽」に気づき、自分自身あるいは他者について理解を深めるのである。本研究会の目的は、以上の検討を通じて、文学作品に宿る「私」と読者の関係を問うことである。